**B-２　「効果的な支援のヒント」**

不登校児童生徒への支援は，本人，保護者，クラスメートなどから話を聞いて，情報を集めることから始まることが多いと思います。いじめなどの可能性も考慮しながら，不登校に至った原因を探ることもあるかもしれません。しかし，いくら情報を集め，本人に問い掛けても，原因がはっきりしないことがあります。「不登校の原因を取り去れば，不登校の解決につながるはず」と思い原因を探しても，その原因が分からずどう支援をしたらよいかが分からなくなってしまった経験はありませんか？では，不登校の原因が分からない場合，どのように考え，どのように対応すれば良いのでしょうか？

**（１）考え方 ： 「原因が分からなくても，支援を行うことができる！」**

なぜ児童生徒は，不登校になってしまうのでしょうか？その要因は多様・複雑であると言われています。文部科学省のデータでも，不登校の原因の約６割は「不安」や「無気力」であると示されています（不登校対応パッケージ　A-1「不登校の理解を深め，支援につなげよう」参照）。「不安」や「無気力」は，なぜそうなってしまうのか本人にも原因が分からないのが特徴です。ですから，いくら原因を追及してもはっきりしないことがあるのは十分に考えられることです。

実際には，原因を聞いていくうちに本人の口から次々と原因が出てくる場合もあります。しかし，何か答えなくてはいけないという思いから話しただけで，どれも本当の原因ではないこともあります。また，過去の出来事が原因である場合には，たとえ原因が分かったとしても，もはや解決することは難しいのではないでしょうか？

ここで大切なのは，「原因が分からなければ，支援ができない」という考えにとらわれず，「たとえ原因が分からなくても，本人に対して支援を行うことができる」と考えることです。では，不登校の原因が分からない場合，どのような支援が可能なのでしょうか？

**（２）対応策① ： 「本人の思いを共感的に受け止める！」**

まずは，「不登校になってどのように思い悩んでいるのか」「どんなことで困っているのか」など本人の見えない思いを推し量り，思いを分かろうとすることが大切です。本人も「このままじゃだめだ」「学校に行きたいけど，どうしても体が動かない」と人知れず苦しんでいる可能性があるからです。自分を責め，時間が経過するとともに，自己肯定感も低下していくことが予想されます。たとえ元気で明るく見えても，登校できないということは「そうせざるを得ない」状態であると考えられるため，本人の思いを十分に推し量るようにしましょう。

本人が不登校の原因を「分からない」と回答した場合は，その思いをよく聞き共感的に受け止めましょう。「自分でも分からないんだよね」「その気持ち，分かるよ」などと声掛けをするだけでも，本人は「分かってもらえた」と安心するかもしれません。そのたった一つの言葉で，「自分の気持ちを分かってくれる人がいる」と思うかもしれません。教師の一言が児童生徒の大きな心の支えになることもあります。そのことを念頭に置きながら，児童生徒の思いを分かろうとすることが大切です。

ＦＲ教育臨床研究所所長の花輪敏男氏は，宮城県総合教育センターの研修会で，周囲の認識が変わることで，登校復帰に向かうケースがあることを参加者に伝えています。支援する側の不登校に対する認識が変わることで，自然に言葉掛けや接し方も変わってくるためだと考えられます。原因が分からずとも，分かろうとすることで本人が前向きに変容していけるように支援を行っていきましょう。

**対応策② ： 「保護者の思いを共感的に受け止める！」**

子供が登校を渋る原因が分からない場合，保護者も焦ったり，不安になったりすることがあります。どう接してよいか分からず，専門機関や病院などに相談したくなることもあるかもしれません。不登校児童生徒を抱える保護者は，自分の子供のことについて日々頭を悩ませ，解決策を求め苦しんでいます。

まずは，保護者にも落ち着いてもらうことが大切です。「どのような子にも起こり得ることなんです」，「お母さん（お父さん）のせいではありません」，「一緒にできることを考えましょう」などと声掛けし，思いを受け止めながら，どうしたら本人が前向きになれるのかを共に考えるようにしましょう。子供を一番近くで支える保護者は，不登校の解消に向けたキーパーソンです。教師と保護者が連携して支援を行うことが，不登校児童生徒にも前向きな影響を与えていくはずです。

こうして信頼関係を築けたら，対応策①の考えを保護者とも共有し，共通理解の基，学校と家庭が連携して本人への支援を行えるようにしていきましょう。

**対応策③ ： 「家庭訪問は目的を明確にしましょう！」**

家庭訪問も有効な対応策になります。家庭訪問では，不登校児童生徒に対して「君のことを常に気に掛けているよ」という気持ちを込めたメッセージを伝えることが何よりも大切です。例えば，児童生徒が家庭でどう過ごしているか心配なことや，直接顔を見たくて来たことが伝わるように心掛けましょう。すぐに登校させようとせず，児童生徒が「先生や学校とつながっている」と感じてもらえるようしましょう。

また，家庭訪問の際，欠席していた時の学校からの配布物を届けることもあると思います。その際は，提出期限まである程度余裕を持って配布することに留意し，欠席してもクラスの児童生徒として考えていることが伝わるようにします。もし，本人が学校の話題を嫌がっているようであれば，直接本人に渡すと心のエネルギーを下げてしまうことになります。その場合は，家庭訪問が終わった後で，保護者から渡してもらったり，本人の目につくところに置いてもらったりして，プリントを見たかどうかを，翌日以降に保護者に連絡して聞いてみるとよいでしょう。そのことを事前に伝えておけば，お互いに目的を持った連絡になるため，保護者にとっても「また学校から電話があったらどうしよう」などとプレッシャーにならずにすみます。本人にとっても，保護者にとっても，「先生と話せて良かった」「また話をしたい」と思ってもらえるような家庭訪問にしましょう。

**～ま　と　め～**

**①　不登校の原因が分からなくても，できる支援を行いましょう！**

**②　不登校の原因が分からないという本人の思いを，共感的に受け止めましょう！**

**③　保護者の思いを受け止め，学校と家庭が連携して支援を行っていけるようにしまし**

**ょう！**

**④　家庭訪問は目的を明確にし，本人と保護者が「先生と話せてよかった」「また話を**

**したい」と思ってもらえるようにしましょう！**

③

**【補　足】**

質問：不登校の理由を聞いてはいけないのでしょうか？

**回答：いいえ，はっきりとした理由があることもあるので，ラポートがとれている場合に**

**は，思いを受け止めた上で，理由を聞いてみることは大切です！**

説明：

ここで述べている「原因追及をしない」とは，原因を聞かないことではなく，本人が分からないと言っているのに，「何か思い当たることはないか？」と無理に聞きだそうとしてしまうことを意味しています。話を進める際にまず大切なのは，本人や保護者の思いを共感的に受け止めることです。こちらが聞きたいことだけで会話を進めると，相手が責められているように感じてしまう可能性もあります。相手の思いに十分に気を配りながら，もし学校に行きたくない原因が分かったら，その原因を取り除いたり，和らげたりするように対応することは必要な支援になります。特に，**いじめが疑われる場合には，本人の思いに寄り添いながら迅速な対応を講じることが極めて大切になります。**